

## 港区におけるナイトタイムエコノミーについて

第3次港区観光振興ビジョンに掲げた「ナイトライフの観光資源化」を具体化し、港区ならではのナイトタイムエコノミーを実現するため、基本的な考え方と目指す姿を定め、安全・安心の取組や夜の観光資源の活用を進めます。

### 1 港区における夜の観光施策の位置づけ

区は、平成30年に策定した第3次港区観光振興ビジョンの中で「観光資源の発掘・活用と観光ルートの創出」として「ナイトライフの観光資源化」を掲げ、夜の観光資源を活用したナイトライフ観光の構築やライトアップを実施するとしています。

港区には、多くの夜景スポットのほか、新橋、六本木、赤坂など日本有数の繁華街、水族館や商業施設、遊戯施設、美術館等（以下「観光施設等」という。）が存在し、日々多くの人々が訪れ、賑わいをみせています。また、六本木アートナイトの実施など、夜のまちと文化芸術の関わりが深いことも特徴と言えます。

今後、ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会など多くの人々が訪れる機会をとらえ、夜の時間を楽しみたいと考える人々に対し、多彩な夜の観光資源を活用した観光体験の場を提供していく必要があります。

### 2 国や都の動向

訪日外国人観光客は、平成24年の836万人が平成29年には2,869万人を記録するなど大幅に増加していますが、観光庁が発表した「「楽しい国 日本」の実現に向けて」の提言では、外国人観光客の日本滞在中の娯楽サービス費の支出が諸外国と比べて低いこととともに、ナイトタイムの有効活用の必要性が指摘されています。

こうした状況の中、国は「観光ビジョン実現プログラム2018」の中でナイトタイム等の活用を掲げ、都は「東京都観光産業振興実行プラン2018」においてライトアップ等の演出への支援やナイトライフ観光の充実を掲げるなど、夜の時間帯における観光コンテンツの強化を進めています。

### 3 港区におけるナイトタイムエコノミーの基本的な考え方と目指す姿

ナイトタイムエコノミーとは、国の資料によると「日没から日の出までの時間を示すが、昼と夜が同じ行動がとれる環境を目指す。<sup>(注)</sup>」こととして使用されており、海外では、店舗営業の規制緩和や交通機関の運行時間の延長など、ナイトタイムエコノミーの活性化を促す取組事例があります。しかし、こうした取組には根本的かつ広域的な対応が必要になることや、生活環境への影響などを考慮する必要があります。区としては当面、公共交通機関の運行時間内を対象として取組を進めていくこととします。

(注)「「楽しい国 日本」の実現に向けた観光資源活性化に関する検討会議」の資料（観光庁ホームページ掲載）より抜粋。

港区には夜の時間を楽しむことができる資源が揃っており、こうした資源を活用することで港区ならではの観光体験を提供することができます。一方で、繁華街などでは客引きや落書き、ごみ、路上迷惑看板等の課題を抱えており、港区を訪れる人々の安全・安心を確保し、夜を楽しむことができる環境を整備する必要があります。

また、都心にありながら賑やかな繁華街と閑静な住宅地が隣接する港区では、区民の生活環境への影響を十分に考えることが必要であるほか、これまで取り組んできた商店街や企業・団体等の多様な主体との連携・協力により実現することが重要です。

区は、こうしたことを踏まえ、港区におけるナイトタイムエコノミーの基本的な考え方を次のとおり定めます。

### 【基本的な考え方】

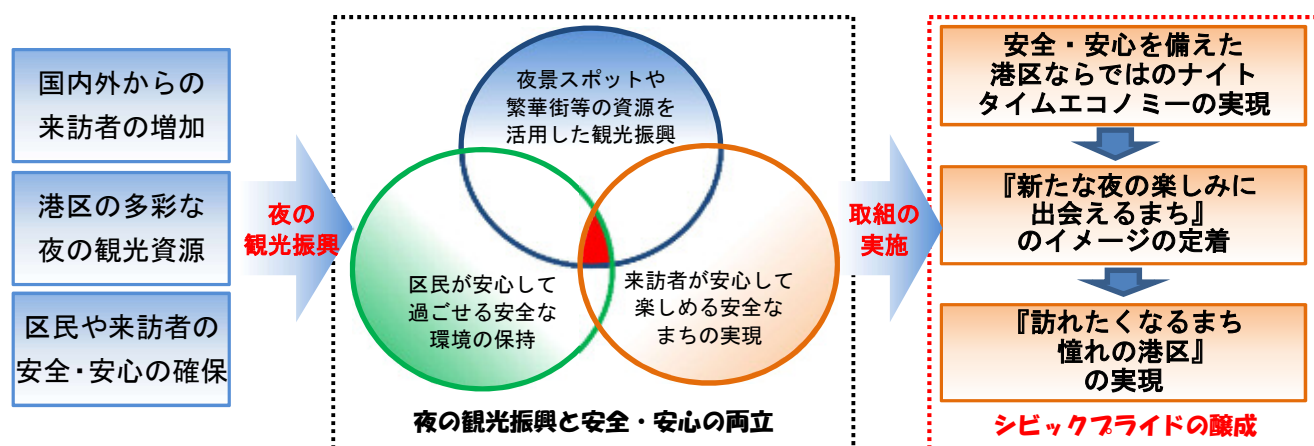
- ① 多彩な夜の観光資源を活用し、来訪者のみならず区民に対し港区ならではの観光体験を提供します。
- ② 夜の観光振興と安全・安心を両立させた取組を進めます。
- ③ 商店街や企業・団体等の多様な主体と連携・協力して取組を進めます。

基本的な考え方に基づく取組を進め、安全・安心を備えた港区ならではのナイトタイムエコノミーを実現することで、地域の魅力やイメージを向上させ、区民の地域への愛着や誇り（シビックプライド）を醸成させるシティプロモーションの取組に繋がります。

### 【目指す姿】

人々が安全・安心を実感しながら、思い出に残る時間を過ごすことで、『新たな夜の楽しみに出会えるまち』のイメージを定着させ、観光振興ビジョンに掲げる『訪れたいまち 憧れの港区』を実現し、区民のシビックプライドの醸成に繋がります。

図：ナイトタイムエコノミーの取組イメージ



## 4 今後の進め方について

今後は、夜の観光振興と区民や来訪者の安全・安心の両立を目指すとともに、ラグビーワールドカップ2019や東京2020大会など、国内外から多くの来訪者が訪れる機会を逃すことなく取組を実施する必要があります。

全庁横断的な体制を構築し、一般社団法人港区観光協会や商店街、企業・団体等と連携・協力しながら、これまでの取組を引き続き進めるとともに、地域や商店街などの関係者と今後の取組について検討する場を設置するなど、港区が目指すナイトタイムエコノミーの実現に向け計画的に取り組めます。